

2024.05.05. 必要な叱責

ガラテア 2 章 1 1 節から 1 4 節

JD ファラグ牧師

一緒に祈りませんか？ 主よ、あなたは偉大なお方です。第一礼拝でのあなたの御言葉を本当にありがとうございます。主よ、それにどのように私たちが向きあって、考えるのか。主よ、私たちは完全ではありません。それが私たちはあなたが必要な理由です。ここで宣べ伝えられる御言葉に感謝します。主よ、私たちの牧師であるマック牧師、JD 牧師、レイトゥ牧師を感謝します。主よ、彼らの家族を強め、守り、導き、見守り続けてください。今、私たちがあなたの御言葉に入る時、主よ、私たちの思いを研ぎ澄まし、心を整え、今日あなたが私たちにご用意されたことを1つも逃さないようにしてくださいますか？ イエスの御名によって祈ります。アーメン。レイトゥ牧師：アローハ！ 会衆：アローハ！ ご着席ください。今日、必要なすべての御言葉を宣べ伝えます。アーメン。アロハ、この礼拝堂（聖域）におられる皆さん、オンラインの皆さんも、日曜日の第二礼拝へようこそ。ご存知のように、JD 牧師は取るに値する休暇中です。どうか彼と彼の家族、特にケリーのために、彼女が癒やされ続けるようにお祈りください。また、主の守りの御手が彼らの上にありますように。日曜日は、2つの礼拝があって、8時半からの礼拝は、JD 牧師が戻ってきたら、「聖書預言・アップデート」で、10時45分からの礼拝は、新約聖書を通して教えています。週の半ばの学びは、木曜日午後7時からです。毎月第一火曜日、午後7時から、ここ礼拝堂（聖域）で、私たちは集まり、教会全体で祈りを捧げます。前回、私は「ガラテヤ人への手紙」2章を教え、10節まで学び終わりました。今日は、「ガラテヤ人への手紙」2章11節を取り上げます。使徒ペテロとパウロはアンティオキアで一緒にいます。問題がありましたが、神はすべてを解決されました。今日の神の御言葉への祝福を祈り願いましょう。お父様、私たちは今日、あなたの御座の前に来て、あなた御言葉に感謝します。おお、あなたの民、子供たちへのあなたのラブレター、教え示される書をありがとうございます。主よ、ありがとうございます。あなたを知らない人々にも語りかけてくださいますように。彼らがあなたの御もとに来て、あなたに心を委ね、救われますように。あなたの御言葉を感謝するために、あなたの御前に来ます。主よ、私たちが養い、導き、今日、あなたが私たちに教えようと望んでおられることへ、聞くための耳と見るための目を私たちに与えてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

今日のメッセージのタイトルは『必要な叱責』としました。使徒パウロが書いたガラテヤ書は、西暦49年にアンティオキアで書かれました。当時アンティオキアはガラテヤの一部でした。パウロはガラテヤ（現在のトルコ）を訪れ、そこで教会を始め、彼らは成長していきました。信者は救われ、福音によって自由にされていきました。彼らはパウロと同じ変化を経験しました。アンティオキアの教会はパウロの出身地の教会でした。アンティオキアから遠くないところに、パウロの生まれ故郷のタルソスがありました。タルソスはキリキア地方の都市です。「キリキア」の名は、キリキウムと呼ばれる布に由来します。この布は、やぎの毛でできていて、水に強く、この布から、レインコートやテントのような防水製品が作られました。ご存知、使徒パウロはテント職人でした。パウロはいつも彼のミニストリーを支えるために働きました。パウロは自分の召しにおいて、お金がつかずきになることを決して望みませんでした。ですから、彼の宣教の間、決してお金を要求しませんでした。JD 牧師が説教壇から金銭を要求しないのと同様。パウロはローマ市民権を持つユダヤ人の両親のもとに生まれ、「サウロ」というヘブル名を与えられました。「サウロ」はヘブル名でもあり、「パウロ」はローマ名でした。当時、ローマ市民権には多くの特権がありました。ローマ市民であることは、パウロの伝道活動において非常に有益でした。パウロがイエスを救い主として受け入れる前、彼はキリスト教会を迫害した宗教指導者でした。パウロはユダヤ教の強力な指導者でした。ユダヤ教は当時も今も、イスラエルの国教です。パウロはパリサイ人で、イスラエルの人々の日常生活や問題にも関与していました。多くの人が、パウロはサンヘドリンだったのではと推測していて、当時のイスラエルで大きな権力を握っていました。パウロは法律家でもあったと考えられています。彼は教養があり、ガマリエル（ガマリエル）の教えを受けました。優秀な生徒で、クラスのトップにまで上り詰めました。ガマリエルはユダヤ教のラビで、当時、尊敬されていた教師でした。パウロの両親は彼をタルソスからエルサレムに送り、学校に通わせました。タルソスは現在のトルコにありました。ですから、エルサレムまでは遠い道のりでした。パウロの一家がタルソスからエルサレムに引越したと信じる人もいます。ガマリエルは当時最高の教師でした。パウロの両親は息子のために最善を尽くしました。ガマリエルは、熱心な読書家のパウロに十分な書物を用意し続けはできな

かったという伝承があります。パウロはユダヤ教とその伝統に非常に熱心で、福音に反対するほどでした。彼は、自分の愛する宗教ユダヤ教への熱意と同じ強さでキリスト教と戦いました。当時、ユダヤ教はイエスとその福音によって脅かされていました。ユダヤ人は、イエスが旧約聖書の救世主の預言の成就であることを信じず、理解しませんでした。私たちは信者として、事実イエスが救世主であられることを知っています。パウロはキリスト教を軽蔑し、教会を迫害し続けました。「使徒の働き」で、パウロがステパノの死を承認しています。ステパノは、敬虔な人で、虚偽に告訴されました。彼は無理やりユダヤ人の法廷に引き出されました。聖霊に導かれたステパノは、ユダヤの指導者たちがその歴史を通して犯した過去の罪を詳しく話し、真実を語ります。「使徒の働き」7章51節から53節でこう語ります。

#### 一使徒の働き 7：51ー

うなじを固くする、心と耳に割札を受けていない人たち。あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖たちが逆らったように、あなたがたもそうしているのです。

#### 一使徒の働き 7：52ー

あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって告げた人たちを殺しましたが、今はあなたがたが、この救世主（正しい方）を裏切る者、殺す者となりました。彼はイエスについて語りました。

#### 一使徒の働き 7：53ー

あなたがたは御使いたちを通して律法を受けたのに、それを守らなかったのです。」

この祭司たちとパリサイ人たちは激怒します。彼らは先祖が預言者たちを殺したことを知っていました。神に対する反逆の歴史を知っていました。彼らはイエスを十字架にかけたのと同じ者たちです。忘れてはならないのは、イエスを十字架にかけたのは私たちの罪でした。エルサレムのユダヤ人たちとともにイスラエルを征服し占領したローマ人たちが、イエスを十字架にかけました。しかし、イエスが十字架にかかられたのは、私たちの罪のためでした。ですから、イエスを十字架にかけた同じ者たちが、この神の人、ステパノを殺すために押し寄せました。しかし、彼らはステパノを石打ちにする前に承認が必要でした。彼らはサウロ（ローマ名：パウロ）から承認を得ました。「使徒の働き」7章57節から60節を読みます。

#### 一使徒の働き 7：57ー

人々は大声で叫びながら、耳をおおい、一斉にステパノに向かって殺到した。

#### 一使徒の働き 7：58ー

そして彼を町の外に追い出して、石を投げつけた。証人たちは、自分たちの上着をサウロという青年の足もとに置いた。

#### 一使徒の働き 7：59ー

こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで言った。「主イエスよ、私の霊をお受けください。」

#### 一使徒の働き 7：60ー

そして、ひざまずいて大声で叫んだ。「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、彼は眠りについた。

ステパノは聖書の中で最初に石打ちで殉教したクリスチャンです。彼は神に罪びとを赦すよう願いました。イエスも同じように十字架にかけられました。イエスも十字架上で同じことを言われました。「ルカの福音書」23章34節にそのことが書かれています。そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」（ルカ 23：34参照）

次の章でも、サウロは教会を迫害し続けます。「使徒の働き」8章1節はこう語ります。

一使徒の働き 8 : 1一

サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。

続けて、2 節と 3 節です。

一使徒の働き 8 : 2一

敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のためにたいへん悲しんだ。

一使徒の働き 8 : 3一

サウロは家から家に押し入って、教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入れた。

「使徒の働き」9 章では、サウロはイエスを信じる者たちを苦しめ続けます。1 節から始めます。

一使徒の働き 9 : 1一

さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き、大祭司のところに行って、

一使徒の働き 9 : 2一

ダマスコの諸会堂宛ての手紙を求めた。それは、この道の者であれば男でも女でも見つけ出し、縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

続けて、3 節から 6 節です。

一使徒の働き 9 : 3一

ところが、サウロが道を進んでダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。

一使徒の働き 9 : 4一

彼は地に倒れて、自分に語りかける声を聞いた。「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」

一使徒の働き 9 : 5一

彼が「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

一使徒の働き 9 : 6一

立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたがしなければならないことが告げられる。」

サウロは復活の主イエスと出会います。天におられたイエスが特別に現れ、サウロという特別な人を召されました。イエスが来られ、サウロは高い馬からたたき落とされます。この強烈で情熱的な男は、イエスによってへりくだりました。少しの間、パウロは誤った宗教、全く偽の宗教に従っています。次の瞬間、彼は生まれ変わり、新しい心と態度を持ちます。ある時期、サウロはクリスチャンを狩るために探し求め、迫害しました。次の瞬間、彼はイエス・キリストを信じる者です。イエスが彼の心と態度を変えられました。「第二コリント人への手紙」5 章 17 節は語ります。

一Ⅱコリント 5 : 17一

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

彼は今、両親がつけたヘブル語の名ではなく、ローマの名であるパウロを使います。彼は今、神との真の愛の関係を楽します。イエスが救世主であるという真理を発見しました。トーラーの聖句はすべて、パウロにとって意味を持ち始めます。この聡明な男が読んできた書の全ての学びが、福音の真理へと彼の心と思い

を開きます。同じ神ですが、今は霊とまことをもって神を礼拝しています。「ヨハネの福音書」8章31節から32節は語ります。

ーヨハネ 8：31ー

イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。」

ーヨハネ 8：32ー

あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

パウロはいつも神に熱心でした。今、彼は真理を知りました。かつて混乱があった彼の人生には平安があります。彼は見つけられ、イスラエルの宗教であるユダヤ教のくびきから解放されました。「第二コリント人への手紙」3章17節は語ります。

ーII コリント 3：17ー

主は御霊です。そして、主の御霊がおられるところには自由があります。

主の御霊がおられるところには自由があります。ユダヤ教にはそれがなく、律法主義なだけでした。ユダヤ教では律法主義が横行し、盛んでした。私たちは皆、「律法主義」という言葉を聞いたことがあります。それを明確に理解している人もいるし、そうでない人もいます。これは私が聞いた「律法主義」についてうってつけの定義です。律法主義とは、神が人間に守らせることを意図しておらず、人間が作り上げた規則である。神が、人間が従うことに意図されなかった規則は、宗教を牢獄のように感じさせます。ユダヤ教では、人の作った規則が神からの教えのように扱われましたが、そうではありませんでした。

クリスチャンはすべきではない。：「クリスチャンはダンスをしたり、テレビを見るべきではない。」こんにち私たちが見る律法主義の例です。律法主義の何が間違っているのか？ 律法主義は、霊的なプライド/高慢をもたらします。それは高ぶり/高慢をもたらし、自分の方が優れていると思うこと。律法主義は、あなたが神に近づいていると言います。特定の行動を慎み、特定の楽しみを否定するからで、神は決してこれらのことを禁じておられません。しかし、律法主義者の考えでは、「神は禁じておられる」です。律法主義はしばしば、喜びのないクリスチャン生活とセットです。律法主義について、パウロは「コロサイ人への手紙」にこう書きます。「コロサイ人への手紙」2章20節から21節、

ーコロサイ 2：20ー

もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのように、

ーコロサイ 2：21ー

「つかむな、味わうな、さわるな」といったために縛られるのですか。

(律法主義です。)

ーコロサイ 2：22ー

これらはすべて、使ったら消滅するものについての定めで、人間の戒めや教えによるものです。

ーコロサイ 2：23ー

これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えますが、何の価値もなく、肉を満足させるだけです。

ですからアンティオキアの教会は成長し、繁栄していました。ユダヤ人は信じ、宗教から解放され、それまで経験したことのなかった神への愛を経験しました。ユダヤ教では経験しなかった喜びがありました。神を知らない異邦人も救われました。聖霊はユダヤ人にも異邦人にも臨まれました。異邦人もユダヤ人と同じよ

うに変えられました。新しい信者たちの心にも平安がありました。異邦人たちは、自分たちが育ってきた偽宗教や偶像礼拝から離され、喜びに満たされました。ユダヤ人と異邦人が交わりを深め、共にパンを割きイエスが来られる前には決してなかったことが起こりました。ユダヤ人は異邦人を不潔で野蛮だと考えていました。あなたが異邦人とは何か知らないで、今日来られているなら、教会に行ったことがないのでしょうか。異邦人とは、ユダヤ人ではない世の人々のことです。ユダヤ人は決して異邦人と交わることはありません。ユダヤ人は自由ゆえに、異邦人と一緒に食事をし、パンを割くようになりました。おそらく、以前は禁止されていた食品を食べているでしょう。それらは汚れていると考えられていたからです。ユダヤ人にとって忌み嫌われる豚肉を食べた人もいたかもしれません。ポットラックや心地よい交わりの時間もありました。今やユダヤ人と異邦人はパウロの兄弟姉妹です。パウロは自分の教会を守り、そうしました。良い牧師たち全員がするように。しかし、福音はユダヤ主義者によって攻撃されていました。ユダヤ主義者とは、イエスを信じたユダヤ人のことですが、彼らなりの意図がありました。彼らはユダヤ教と律法主義から抜け出せず、彼らは、「救いはイエス・キリストによる信仰だけである」と信じることを拒否しました。多くはパリサイ人で、ユダヤ教の指導者であり、社会を支配していました。彼らはキリスト教を公言しましたが、誤った教理を教えていました。福音は、偽教師たちによって中傷されていました。彼らは誤った宗教を教え、改宗者たちは道を踏み外しました。「ユダヤ主義者」という言葉は、ユダヤ人の方法に従って生きることを意味します。彼らは、イエスによって改宗したユダヤ人に、ユダヤ教という民族宗教の掟と伝統を守り続けさせたかったのです。彼らはまた、異邦人がユダヤ人のようになり、生きることを望みました。彼らは異邦人にも割礼を受けるよう求めました。ユダヤ教主義者からの圧力で、ユダヤ人は教会を去っていきました。ユダヤ人改宗者たちは同胞から圧力を受け、誰も救うことのできない死んだ宗教に戻っていきました。多くの異邦人は、割礼もユダヤ人になることもしないと言って、教会から離れていきました。「ガラテヤ人への手紙」の冒頭で、パウロは、「ガラテヤ人が神から遠ざかっている」と書きました。「ガラテヤ人への手紙」1章6節から8節で、パウロはこう言いました。

#### ーガラテヤ 1：6ー

私は驚いています。あなたがたが、キリストの恵みによって自分たちを召してくださった方から、このように急に離れて、ほかの（ほかの）福音に移って行くことに。

#### ーガラテヤ 1：7ー

ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたを動揺させて、キリストの福音を変えてしまおうとする者たちがいるだけです。

#### ーガラテヤ 1：8ー

しかし、私たちであれ天の御使いであれ、もし私たちがあなたがたに宣べ伝えた福音に反することを、福音として宣べ伝えるなら、そのような者はのろわれるべきです。

敵は常に、世における神の働きを妨げようとしています。先週の土曜日に予定していた追悼式がありました。私はこの家族に福音を伝えたいと強く願いました。数週間前から、全てのことが違う方向にいつてしまい、体調さえ崩して出席できませんでした。私は本当に出席し、この家族と本当に福音を分かち合いたかったのです。しかし、できませんでした。申し上げたように、敵は常に神の働きを妨げようとし、敵は、このユダヤ主義者たちのように、一見敬虔に見える宗教家たちを敵の命令を実行するよう利用します。パウロはこのユダヤ主義者たちと何度も出会いました。彼らはパウロの行くどこにでも、伝道旅行でさえもついていきました。パウロが書いているように、

「あなたがたは偽者に騙されている。あなたがたは、福音というシンプルなメッセージに何かを付け加えたのです。福音に何かを付け加えることは、福音を汚します。なぜ自分を救えない信仰体系に戻るのか？これが、福音について神の御言葉が語っていることです。」「ローマ人への手紙」3章25節から27節は語ります。

#### ーローマ 3：25ー

神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義



を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

ーローマ 3：26ー

すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。

ーローマ 3：27ー

それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行いの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。

パウロが書いたように、なぜ福音/良い知らせのない宗教に戻るのか？ なぜ、自分を救えない信仰体系に戻るのか？「ガラテヤ人への手紙」の学びで取り上げましょう。「ガラテヤ人への手紙」1章2節、、、、ごめんなさい。2章11節と12節です。

ーガラテヤ 2：11ー

ところが、ケファ（ペテロ）がアンティオキアに来たとき、・・・(パウロが話し、書いています。)・・・彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。

ーガラテヤ 2：12ー

ケファ（ペテロ）は、ある人たちがヤコブのところから来る前は、異邦人と一緒に食事をしていたのに、その人たち（ユダヤ主義者たち）が来ると、割礼派（ユダヤ主義者）の人々を恐れて異邦人から身を引き、離れて行ったからです。

新共同訳ではこうなっています。

ーガラテヤ 2：11（新共同訳）ー

さて、ケファ（ペテロ）がアンティオキアに来たとき、非難すべきところがあったので、わたしは面と向かって反対しました。

ーガラテヤ 2：12（新共同訳）ー

なぜなら、ケファ(ペテロ)は、ヤコブのもとからある人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事を楽しんでいたのに、彼らがやって来ると、割礼を受けている者たちを恐れてしり込みし、身を引こうとしたからです。

11節で、パウロはペテロの偽善を叱責します。この章でのパウロとの出会いは、ペテロにとって恥ずかしい瞬間で、ミニストリーにおいて、楽しい時ではありませんでした。ペテロとパウロは親友になりました。彼らは共に戦い、勝利しました。しかし、ペテロのしたことは大変間違っていて、パウロはペテロを叱責します。先に進む前に、ペテロに関する私の心を知ってほしいのです私はペテロが大好きで、聖書の中で私のヒーローです。ペテロのように、私もまた挫折します。私はいろいろな瞬間があります。ペテロのように、私は主の愛と恵みに感謝します。私たちが知っているように、ペテロは偉大な信仰の人でした。ペテロは大変親しく、イエスを愛していました。ペテロはイエスに最も近い使徒の一人でした。ペテロは、ヨハネや弟のヤコブとともに側近の一人でした。ペテロは3年間イエスに従い、イエスから多くのことを学びました。イエスは彼に、病人や足の不自由な人を癒す力を与えられました。(使徒 9章参照)

イエスはまた、ご自分の羊の世話をし養うように励まされました。(ヨハネ 21：16-17 参照)

ペテロは、そのミニストリーを通して、まさにそうしました。ペテロは愛し、気遣い、神の人々と福音を分かち合いました。パウロは、宗教書とラビから教育を受けました。ペテロは、神ご自身が受肉され人となったイエスから導かれました。彼はまた、12使徒の指導者にもなりました。大胆で勇気のあるペテロでしたが、再度その瞬間がありました。挫折し、弱った時期でした。ペテロはイエスから目を離したとたん、湖に沈みました。(マタイ 14：29-30)

若い娘にイエスを知っていることを三度も否定し、すると鶏が鳴いた話を思い出します。(マタイ 26 : 74 参照)

私たちが読むのは、その時ペテロはイエスに足を洗わせなかったこと。(ヨハネ 13 : 8 参照)

ですから、11 節は、聖書の歴史で、ある偉大な使徒が別の使徒を叱責する陰鬱な瞬間です。しかし、福音はユダヤの熱心党によって脅かされています。パウロは脅威を察知します。しかし、ペテロはユダヤ主義者たちを恐れます。彼らはユダヤ主義と律法主義を手放さない人たちです。彼らはアンティオキア教会の信者たちをいじめにきました。彼らは福音とパウロを抹殺したいのです。12 節が語るには、ペテロはアンティオキアに到着したとき、異邦人と共にいました。ペテロは異邦人とパンを割き、一緒に食べ、共に祈り、イエスがペテロに教えてくださったことを彼らに教えました。彼らはおそらく、一緒に素晴らしい聖書勉強をしたのででしょう。しかし、エルサレムからユダヤ主義者たちが現れます。ペテロは彼らを恐れました。彼らはイエスの異父兄弟ヤコブの友人たちでした。ご存知、私たちが思い出すのは、ヤコブは未信者で、イエスの異父兄弟でした。今、彼はエルサレムで神の教会の有名な指導者です。ユダヤ主義者たちは、ペテロが異邦人たちと一緒に食事をし、彼らを愛し、交わりを深めているのを見て、ショックを受けました。彼はポークチョップと一緒に食べていたかもしれません。ユダヤ人はポークチョップを決して食べませんでしたね。しかし、キリストにあるこの自由によって、今、彼らは自由を持ちました。このユダヤ主義者たちは常に問題でした。彼らは根っからの律法主義者でした。人の伝統と共に規則や習慣を加えることで、成長する神の教会を破壊したいのです。信者の間に混乱をもたらす基本的なことです。アンティオキア教会のこの時期は、重要な時でした。その圧力に耐え切れず、ペテロはそれを受け入れました。ペテロはユダヤ主義者たちからの強い圧力に屈しました。ペテロはイエスから目を離しました。ペテロは異邦人の信者たちから離れ、もはや彼らとは交わりも食事もしませんでした。教会の分裂があったのは、人々が偽善を目の当たりにした時です。ユダヤ主義者の多くは、利己的でした。彼らは人々から注目されるのが大好きでした。彼らは自分たちが振る権力を愛し、それを手放したくありませんでした。彼らは異邦人が教会から去るのを喜びました。異邦人を嫌っていたからです。神が人々にお持ちになる同じ心を彼らは持っていませんでした。彼らはイエスの十字架刑を求めたのと同じグループです。ですから、ペテロの前にあるジレンマを理解できます。なぜペテロは、ユダヤ主義者たちを恐れたのか？ ペテロはいつも彼らを尊敬していたのかもしれませんが。彼らはイスラエルで育ったペテロのユダヤ教会堂の指導者たちだったのかもしれませんが。ペテロは十字架を、彼らがイエスにしたことを、思い出したのかもしれませんが。イエスが十字架につけられた時の痛みの記憶を。たぶんペテロは覚えていて、それを経験したくなかったのかもしれませんが。いずれにせよ、ペテロはただの人間を恐れました。「箴言」29 章 25 節は語ります。

一箴言 29 : 25

人を恐れると罨にかかる。しかし、主に信頼する者は高い所にかくまわれる。

私たちの人生には圧力がかかることがあります。ペテロのように、立ちすくむか、立ち上がるかのどちらかです。このような時、イエスは、私たちがイエスを信頼することを望んでおられます。神は注目しておられ、すべてを見ておられると私たちは確信できます。私たちがイエスを信頼し、立ち上がることができるように祈ります。「箴言」3 章 5 節から 6 節、

一箴言 3 : 5

心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りに頼るな。

一箴言 3 : 6

あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。

パウロはユダヤ主義者たちに直面して、たった一人で立ち向かったとあります。パウロがペテロを非難したのは正しいのです。真の福音が天秤にかけられ、パウロは立ち上がります。パウロは彼らについて全てのことを知っていました。彼らがどう考え、何を信じていたかを。パウロは元パリサイ派で、強い指導者でした。パウロは、神殿でユダヤ主義者たちと一緒に仕えていたのかもしれませんが。彼らと同じラビの学校に

通っていたかもしれませんが。たとえペテロとバルナバが恵みに届いていなかったとしても、パウロは、彼らがこの宗教家たちを恐れていることが分かります。ガラテヤ書のはじめで、パウロは自分の召しについてこう証します。パウロは、救われた後、物事を整理するためにアラビアに行き、自分が学んだこと、思いに蓄積されたこと、そしてそのすべてがイエスと福音にどのように関係するのかを整理しようとしていました。パウロは常に聖書について幅広い知識を持っていましたが、今、彼の内には聖霊がおられ、内住されています。神の御言葉で学んだことはすべて、パウロにとって意味を持ち始めています。彼にとってはすべてが良い方向に進んでいます。パウロはワクワクします。神がパウロに福音の計画を啓示されたのは、パウロが一人、砂漠で主とともに充実した時間を過ごしていた時でした。主とともにひとりの時間を過ごすことは、私たち信者にとっていつも祝福に満ちます。私たちの多くは大変忙しいので、主があなたに時間を与えてくださるよう祈ります。パウロは、ユダヤ教で持ったのと同じ熱意のある新しいクリスチャンです。かつては教会の迫害者でしたが、今はイエス・キリストに従う者です。主は再び、これらの真理をパウロに啓示されました。「ガラテヤ書」1章で、先ほど読みましたが、11節からです。

#### ーガラテヤ 1：11ー

兄弟たち、(姉妹たち) 私はあなたがたに明らかにしておきたいのです。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。

#### ーガラテヤ 1：12ー

私はそれを人間から受けたのではなく、また教えられたのでもありません。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。

#### ーガラテヤ 1：13ー

ユダヤ教のうちにあった、かつての私の生き方を、あなたがたはすでに聞いています。私は激しく神の教会を迫害し、それを滅ぼそうとしました。

#### ーガラテヤ 1：14ー

また私は、自分の同胞で同じ世代の多くの人に比べ、はるかにユダヤ教に進んでおり、先祖の伝承に人一倍熱心でした。

#### ーガラテヤ 1：15ー

しかし、母の胎にあるときから私を選び出し、恵みをもって召してくださった神が、

#### ーガラテヤ 1：16ー

異邦人の間に御子の福音を伝えるため、御子を私のうちに啓示することを良しとされたとき、私は血肉に相談することをせず、

#### ーガラテヤ 1：17ー

私より先に使徒となった人たちに会うためにエルサレムに上ることもせず、すぐにアラビアに出て行き、再びダマスコに戻りました。

15節で、パウロはこう語ります、神は、彼が生まれる前から、彼を福音の宣教のために選ばれたと。神はパウロにイエスが誰であるか、救世主であることを明かにされました。神は全世界、すなわち異邦人に福音を広めるためにパウロを選びました。パウロに福音がもたらされたのは、誰かによってではありません。それは主イエス・キリストご自身の啓示によってでした。私たちは旧約聖書のエレミヤを思い出します。神は、エレミヤの人生を召されました。エレミヤは16歳くらいの若者でした。神のエレミヤへの使命は、イスラエルの民に警告することでした。神への反逆を警告するためです。誰も聞かず、その後、民は捕囚となりました。旧約聖書の「エレミヤ書」にその記述があります。「エレミヤ書」1章4節と5節が語ります。

#### ーエレミヤ 1：4ー



次のような主のことばが私にあった。

#### ーエレミヤ 1 : 5ー

「わたしは、あなたを胎内に形造る前からあなたを知り、(私にとって驚きです。) あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた。」

エレミヤのように、パウロも母の胎で、まだ形造られる前から、神が自分の人生に計画を持っておられることを悟っていました。ご存知、神は全知であります。神は全知であられ、すべてをご存知です。神は過去のすべてをご存知です。神は現在と未来のすべてをご存知です。パウロは、神が彼のために用意されている偉大な計画について全く知りませんでした。神は、私たちがまだ知らない計画があなたにあられます。24年前、私はアルコール依存症でした。私はイエスに叫びこう言いました。「イエスよ、助けが必要です。」私に福音を伝えるために誰かを遣わしてくださいました。この人物と出会って1ヵ月後、私は主に「はい。」と答えました。それ以来、アルコールを摂っていません。私は救われ、携挙の準備ができ、天国に行くことができます。ですから、私がこう言う時、「神はあなたのために計画を持っておられます。神はあなたのために計画があられます。」踏ん張ってください。神はあなたの人生に驚くべき御業を成してくださるからです。私たちの学びの15節には、同調圧力がクリスチャンたちをつまづかせたと語ります。「ガラテヤ人への手紙」2章13節が語ります。

#### ーガラテヤ 2 : 13ー

(そして、)ほかのユダヤ人たちも彼と一緒に本心を偽った行動をとり、バルナバまで、その偽りの行動に引き込まれてしまいました。

パウロの相棒であるバルナバでさえ、この偽善に引き込まれました。ペテロの悪い例がバルナバに影響を与えました。バルナバはもっとよく知るべきでした。バルナバは多くの時間をパウロと共に過ごし、このユダヤ主義者たちと戦いました。ペテロは同調圧力に流され、自分が正しいと思うことから遠ざかっていました。この「ガラテヤ人への手紙」の記述の少し前、ユダヤ人の指導者たちとパウロの間に意見の相違がありました。再度、福音と異邦人の救いに関する問題でした。教会は始まったばかりでしたが、福音の真理に関する未解決の疑問や問題があまりにも多くありました。パウロとバルナバはこれらの問題を解決するためにエルサレムに向かいます。このことは、「使徒の働き」15章に書かれています。数カ月前の学びの時にも、「ガラテヤ人への手紙」2章のこの会合について読み学びました。パウロとバルナバはアンティオキアからエルサレムに向かい、教会の指導者たちと協議したかったのです。この会合は、教会の歴史において極めて重要な瞬間でした。福音の占有者がどちらになるかはすぐに決まりました。ユダヤ主義者の道か？神の道か？誰が勝つかは知っています。アーメン。再度、問題がありました。再び、パウロに反論するユダヤ主義者たちがいました。彼らは、福音がパウロによって考えられたと信じていました。ですから、彼らは、パウロのミニストリーを消滅させようと狙いを定めました。彼らは、パウロの人生の召しが、彼が生まれる前からパウロのために計画されていたことに気づきませんでした。パウロがアラビアでイエスと二人きりでいたことも、聖霊がこれらの真理をパウロに啓示したことも彼らは知りませんでした。嬉しいことに、この問題はエルサレムでパウロと福音に有利に解決しました。エルサレムの指導者たちが出席しました。イエスの異父兄弟のヤコブが主宰し、教会指導者の判断を下しました。ペテロとバルナバはこの重要な会議に出席しました。ペテロは実際に、パウロと福音を支持する証言をしました。戦いに敗れたユダヤ主義者たちは非常に失望しました。彼らは戦いに敗れましたが、争いに備えます。聖書はこう語ります。世にとっては、私たちの信仰は愚かです。(1コリント 1 : 18参照)

ユダヤ主義者たちは、パウロの変えられた人生を理解できませんでした。パウロはユダヤ主義者の一人であり、大きな権力と威信を持つパリサイ人でした。「なぜパウロは、自分の人生に利益をもたらす宗教を捨てられるのか？」この人たちは新生していなかったので、聖霊が彼らのうちにおられず、霊的な理解を与えていませんでした。彼らは、神が人類を救うために用意してくださった計画に盲目でした。彼らが見ることができた全ては、救いは業と善行、そしてモーセの律法への厳格な服従によってのみもたらされることでした。彼らは福音の中に神の愛と恵みを見ることができませんでした。「第一コリント人への手紙」2章13節から16節は語ります。

ーI コリント 2 : 13ー

それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです。

ーI コリント 2 : 14ー

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。

ーI コリント 2 : 15ー

御霊を受けている人はすべてのことを判断しますが、その人自身はだれによっても判断されません。

ーI コリント 2 : 16ー

「だれが主の心を知り、主に助言するというのですか。」しかし、私たちはキリストの心を持っています。

この礼拝堂（聖域）にいる私たち、またオンラインで見ているあなたが新生しているなら、キリストの思いがあります。あなたが救われていなくても、キリストの思いを持つことができます。あなたがイエスをあなたの救い主と呼ぶ時、神は聖霊を遣わしてあなたに内住されます。聖霊は、神からの霊的真理を理解させてくださいます。あなたがまだ神を知らず、新生していなければ、これらのことを理解することはできません。まだ新生していないなら、待たないでください。今日、イエスを呼び求め、救われるため良い日になるでしょう。「ガラテヤ人への手紙」2章14節、

ーガラテヤ 2 : 14ー

彼らが福音の真理に向かってまっすぐに歩んでいないのを見て、私は皆の面前でケファ（ペテロ）にこう言いました。・・・

ここで、パウロがユダヤ人全員の前でペテロを叱責します。すべての異邦人の前で、教会の前で。

・・・「あなた自身、ユダヤ人でありながら、ユダヤ人ではなく異邦人のように生活しているのならば、どうして異邦人に、ユダヤ人のように生活することを強いるのですか。」

「どうして異邦人に、ユダヤ人のように生活することを強いるのですか。」新共同訳ではこのように書かれています。

ーガラテヤ 2 : 14（新共同訳）ー

しかし、わたしは、彼らが福音の真理にのっかってまっすぐ歩いていないのを見たとき、皆の前でケファ（ペテロ）に向かってこう言いました。・・・「あなたはユダヤ人でありながら、ユダヤ人らしい生き方をしないで、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人にユダヤ人のように生活することを強要するのですか。」

パウロは怒り、ペテロと他のユダヤ人たちを大胆に叱責しました。「ペテロよ、あなたは最初に信じた時、ユダヤ教を捨てたのだ。私たちユダヤ人が決して守ることのできなかった規則や掟を。あなたはイエスからこれらの真理を学んだ。今、あなたはこのユダヤ人に、ユダヤ教に戻ることを望むのか。異邦人にユダヤの伝統を強制するのか?」「偽善」という単語は辞書にこうあります。: 道徳的な基準や信念があるにもかかわらず、自分の行動がそれに適合していないと主張すること。それが偽善の本質で、自分がしないことを他人にさせようとする。ペテロは異邦人に生活様式に従わせようとしていますが、彼自身やユダヤ人は決して従わず、守れなかったことを証明します。パウロはさらにペテロを叱責しました。「エルサレムでこの福音の問題を解決したことを覚えていないのか? 使徒たちを含む教会の指導者たちは同意した。今、あなたはユダヤ主義者たちに脅されている。」ペテロは恐怖心から判断を誤りました。ペテロは異邦人にもユダヤ人のようになることを強要しました。コンペル/compel という単語は:「強制する」「圧力をかける」という意味です。ペテロは、異邦人にユダヤ教の掟を守り、割礼を受けるよう迫っていたとさえ考える人もいます。

先ほども言ったように、ペテロのように、私たちの多くは挫折します。神よ、ありがとうございます。神がすべてを支配しておられる通り、神はいつもご自分のご方法です。何も不意を突かれることはありません。イエスは、福音が国々に届くことを予告されました。「マタイの福音書」でそれが分かります。「マタイの福音書」24章14節が語ります。

#### ーマタイ 24：14ー

御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。

今日の箇所、ペテロは最高の状態ではありませんでした。同調圧力がどんなものかは、私たち全員が経験していることだからわかります。圧力をかけられるのがどれほど不快か、私たちはわかります。ですから、私たちが挫折した時を忘れてはいけません。私たちはまた、ペテロがイエスを愛し、イエスのために多くのことを行ったことも知っています。私たちが私たちの失敗を赦されるように、ペテロも失敗を赦されました。ですから私たちは罪の埃を払い、私たちが形造られる前、生まれる前から神が計画されている召しを果たすために前進します。「ローマ人への手紙」1章1節、ごめんなさい。12章1節から3節は語ります。

#### ーローマ 12：1ー

ですから、兄弟たち、(姉妹たち) 私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

#### ーローマ 12：2ー

この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

#### ーローマ 12：3ー

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。

人々はクリスチャンとしての私たちの生き方を見ています。彼らは私たちの信仰が本物かどうかを確かめたいのです。私の祈りは、私たちが信仰の良い模範となり、イエスをよく表す良き大使となることです。人々には希望が必要であり、その希望はイエスにあります。イエスが十字架上で示された愛を思い起こしましょう。福音を伝え続けましょう。「ヘブル人への手紙」12章1節から2節が語ります。

#### ーヘブル 12：1ー

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

#### ーヘブル 12：2ー

信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

福音のシンプルさは神のご計画です。福音は、イエスを信じる信仰によって受け入れ、それ以上はありません。あなたは罪の罪責感から解放され、神に従い、神を愛します。宗教と律法主義から自由になり、主を礼拝します。あなたは神に天国を約束されています。神は決して約束を破ることはありません。あなたの人生は変わり、新しく創造されます。あなたは新しい人になります。あなたは大変感謝し、イエスをさらに愛します。あなたはイエスを大変愛しているから、イエスの心を傷つけないようになります。故意に罪を犯すような生き方をして、イエスを失望させたくありません。ですから、どう振る舞うべきかを示す規則は必要あ

りません。あなたが正しく生きるのは、主イエスを愛しているからです。あなたは十字架と、イエスがあなたのためにしてくださったことを思い出します。日々、御子イエスを遣わしてくださった神に感謝します。日々、イエスのいのちは私たちの罪の赦しのために犠牲になられたことに感謝します。その十字架上の苦しみと死のおかげで、私たちは癒されるのです。日々、聖霊に感謝します。自分自身ではなく、よりイエスのようにしてくださりながらあなたのうちで働かれることに。

「イエスよ、あなたのご存在が増し、私が自分に死ねます様に。」(ヨハネ 3:30 参照)

ご起立ください。カポノ、上がってきてください。今回、少し違うことをします。まだイエスを受け入れておられない人に、私は招待状を送りたいのです。24年前、友人に導かれたシンプルな祈りです。彼は私にこう言いました。

「ただ誠実になりなさい。神はご存知です。」イエスを呼び求めれば、この地上での時が終わる時、あなたが天国にいることを約束してください。神は聖霊を遣わされあなたのうちに内住されます。あなたを変えられるために。あなたの人生を導き、教えるために。私に分かち合ったように、あなたは決して同じではありません。人生で真の喜びと真の平安を発見します。今日、この礼拝堂（聖域）で、オンラインで、あなたがそれを望むなら、私の後に繰り返してください。自分自身で静かに、あるいは、声に出して祈ってください。どちらの方法でも、神はあなたの声を聞いてくださいます。再度、ただ誠実に、神はご存知です。まず、頭を下げましょう。

イエスを救い主として受け入れたいあなたのために、私の後に繰り返してください。祈ります。

天のお父様、御子イエスを遣わしてくださり、ありがとうございます。イエスよ、私の罪が赦されるために、あなたが受けた痛みに感謝します。あなたによって、私に天国が約束されたことを感謝します。私があるあなたを呼び求めたからです。あなたの聖霊によって私の人生を導いてください。主よ、私をもっとあなたのようにしてください。イエスの御名によって、アーメン。

ここ礼拝堂（聖域）で、あるいはオンラインで、あなたがその祈りを心から祈ったなら、携挙の準備はでき、天国に行くことができます。あなたのこの決断について、クリスチャンに話してください。祈りましょう。

天のお父様、今日、私たちは御座の前に参ります。あなたの御言葉に感謝します。主よ、使徒パウロの大胆さを教えてくださいありがとうございます。主よ、ペテロがしたように、私たちが弱くなる瞬間があることも教えてください感謝します。あなたは私たちを抱えられ、愛してください。あなたは神であられるからです。主よ、御子を遣わされ十字架で私たちのためにしてくださったことを決して忘れません。私たちはありがたく、感謝し、あなたに畏敬の念を抱きます。私たちは心からあなたに従います。お父様、ありがとうございます。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7